２０２３　世界選手権大会　男子トリプレット　ベナン　９月 14 日～17 日

新たなチーム　約 1 カ月前に開催されたアジア選手権大会メンバーがひとり入れ替わっての挑戦
チーム全員でのゲームプランを一致させるため、飛行機の乗り換えの待ち時間やベナンへ到着してからも全員での話し合いの時間を多く持ち、コミュニケーションが円滑に取れるようになり、大会に臨むことができた。
ただ、長時間の移動等により、選手のひとりが手首を故障させてしまい、ボールを投球できる状態ではなかったため、３名で戦うこととなった。
大会前に話し合いの時間を多く持っていたので、作戦はシンプルに自分達の目指すペタンクを出来たと思う。
しかし、相手チームの技術が高いことから、少しのミスを大量失点につなげられたり、優位に進めていても 1 球で形勢を逆転されたりと、得点機会が全くないと思えるほど抑え込まれた。
これまで、良く知らないアフリカチームにおいても個人の技術力が相当高かった。
今後の日本の課題
これまで何度も書かせてもらっていますが、作戦・チームワークも必要ない訳ではありませんが、第 1 に個人のレベルを相当高くしないと海外ではまず勝てない。日本の成功率が約５０％に対し、４強入りしていない対戦相手でも６５％～７０％とかなりの差がある。
　特に、ティールは当てるのは必然で成功率に加えて、相手より残るボールを投球しないと、残ったボールを得点に結びつけられ大量失点することになる。
　ポワンテを選択したら、必ず思ったところへ寄せる技術が必要。
今回、比較的易しいテランだったため、技術力の差がより鮮明に得点に現れたように感じた。

余談
- ホテルは、２名使用ならば、ツインベットが必須
- ホテルのシャワーが水しか出なかった。
- 水道水は、比較的綺麗に思えた。
- 長時間の飛行機と乗り継ぎで、相当な体力消耗があった。
- 海外の飛行場では、搭乗ゲートが 15 分前に変更があったり、遅れることは当たり前のように発生。

- ベナンの治安は、飛行場近くのホテルだったのと、２Ｋｍほどに政府関連施設があることから、比較的良かったと思う。
- 大会日程などの連絡
  今回のベナンでは WhatsApp が使用された。
  アジア選手権 2022 タイは、ＬＩＮＥを使用。
- 会場はとても綺麗だったが、毎日雨が降り、屋根がなかったのは、厳しいものがあった。
- 雨対策に、カッパが必須
- 海風が吹いて、比較的過ごしやすかった。
- 開会式が中止になり、閉会後のパーティーにも出席できなかったのは、とても残念でした。
  ただ、閉会後のパーティーにも出席するためだけに、現地にあと２日滞在したくはなかった。全員の意見
- 食事は、ほぼ毎日同じ感じだったので、流石に飽きました。
- 機内の温度が異常に低く、薄い上着を着ていても寒く、防寒具が必須

２０２３世界ペタンク選手権大会 in ベナン報告書

中　村　　孝

中村のアジアの報告書は、思いも込めて長々と書き込んでしまって、後から、恥ずかしさも膨らんできました。アジアコーチの石川さんから「世界は基本的にティルール、ミリューは堅田、三好のお二人で、ポワントゥールは中村と鍋島の二人にまかせる方向で考えている」と言われていましたので、普段はティールばかり練習していましたが、アジアから帰っての練習は、ポワンテ４:ティール６の割合で練習をして行きました。アジアでティールの重要さを痛感したので「守るティールもある。」「カロにならなくも、当てたボールよりビュットに近いティールしたボールを作る。」「試合終盤で発揮するビュットティール」も意識して練習して、9 月 11 日を迎えた。

最大の反省点は、健康管理のための準備不足

①　防寒着、長袖を手荷物の持ち物としてリストに入れる。

西アフリカのベナン共和国で行われた世界選手権大会は、日本からは太平洋から北極海を縦断し、ヨーロッパ大陸を越え、地中海を渡り、アフリカのサハラ砂漠を通過して大西洋に面したベナン共和国にたどり着いた。一言で、遙かに遠い。アジア大会以上に飛行機に乗る時間が長く、1 万 2 千ｍ上空の大気温度は－50℃前後、アジアの経験からキャビンは寒いので長袖のウインドブレーカーを持って行ったのですが、甘かったです。ダウンを持っている人もいました。長袖のインナーやダウンジャケットを持つべきでした。

②　長時間の空路で寝起きができる体力を持つ

空路が長いので、疲労が激しい。アジアから帰ってきて 2 日体調は悪くなったが、インフルでもコロナでもなく過労で、3 日目に快復しました。しかし、ベナンから帰国した 19 日の昼から熱が出て、20 日の深夜から、21 日中は 39.8 度になってしまいました。コロナとインフルエンザのダブル感染か？と心配し 22 日に発熱外来を受診した。結果は、インフルでもコロナでもないけど疲労困憊の体調不良で、何らかの感染が考えられる重い風邪でした。いわゆる風邪なので、抗生物質をもらい数日様子を見ました。25 日に職場に復帰したので 7 日間かかりました。しかし、まだ痰と咳は止まりません。蓄膿気味になったかもしれません。行きも帰りもエコノミーで 2 昼夜はきつい。私のような高齢者は熟考した方が良いかなと思った。

③　大会期間中の雨のため、傘だけでなく用具を入れるビニール袋

大会期間中は、雨の降らない日がなかった。海外旅行なので、丈夫な大きく長い傘は持てず、折りたたみ傘は小さいので、強い雨や横風の雨でびしょ濡れになる。すぐに帰ってホテルで休憩できず。ぬれたままテントに待機することが多かった。現地の人はほとんどぬれて

いるので全く気にしていない。テント内は、冷房が効いているから、風を直接体に受けると風邪を引く危険があった。コンビニのカッパは用意していたが、使っている人が誰もいないので、着る雰囲気ではなかった。折りたたみ傘を使ったが風が強く、雨よけには弱い。

対策として①ウインドブレーカーに防水スプレーをかけておく。②リュック等を入れるビニール袋。大きくて丈夫な折りたたみ傘。

結果的に、市販の風邪薬を予備で持っていたが、飲まずにすんだ。

第１試合　セネガル戦　アフリカ勢との初対戦　ポワントゥールで先発した。

１メーヌ目。日本の攻守もうまくいき、セネガルを１点に抑える。2メーヌ目、日本の寄せも相手の内側に入れるが、セネガルのティールがよく当たり、１ｍくらいに残る。日本らのティールも当たるが、アウト又はセネガルより遠くに止まる。日本がティールを外すとつけ込まれ、打って残され、日本が投げきり。2メーヌ目は5点取られる。その後、セネガルに１点、ビュットティールのドロー、日本の１点、セネガルの５点、セネガルのビュットアウトのドロー、セネガルのティルールの調子が悪くても、ミリューが上手で、よく当てて残した。中村のポワンテも悪くはなかったが、日本の球数有利な状況で、得点を取りに行ける場面で、日本の 1 番にしっかり連動するように寄せてくる。それを排除できずに相手の得点になる。又は、セネガルの寄せより日本が寄って、セネガルのティールが外れて、日本の球数有利が起こると、セネガルのミリューがティールしてビュットアウトのドローを狙って成功させる。日本に有利なメーヌは決して作らせない。

ラストメーヌ。セネガルは基本ビュットより７０ｃｍ位離れたところに 1 球置く。中村が寄せる。セネガルは打って残す。打たれた日本は寄せるが、打たれない場所、連動する場所に置けない。セネガルは打ち、残す。寄せれば打たれるので、打ちに行く。残れば、打たれ、結局投げきりで、相手に１番を取られて１３：１で敗戦する。

セネガルに対して圧倒的な敗戦だったが、日本の成功球が少なかったのではなく、成功球の質の問題だと思った。それが、実力の差だったと思うのだが、相手がティールすると連動してビュットやボールが当たって動くから「いやだな」と思わせるポワンテがまず成功しないと話にならない。さらに、ティールの精度は相手が遙かに上だった。当てるだけでなく残していた。アフリカのチーム（対戦したセネガル、マリ、ジブチ、モーリタニア）は、ほとんど同じ戦法でやってきた。

世界選手権最終戦　モーリタニア戦　ポワントゥールで先発

ラストメーヌになった場面。８メートルのビュット手前 15cm にモーリタニアの 1 番があり、40～50cm に２番・3 番は日本だった。残り日本２球、モーリタニアの３球。日本は堅田ティールで大量得点を阻止する戦法で、ティール手前落ちて、失敗。日本のラストボールは中村のポワンテ。しのぎながらも得点を取られて 10：3 の状況。相手の 1 番につけるしかない場面、中村の寄せが正面にも置けず、かなり外れてしまった。絶妙な寄せで、1 番に寄せて追加点を稼ぐ。2 球目も成功して、３：１３と大敗した。ポワンテの実力不足を大

いに感じた試合だった。精度の高いポワンテ、座位でポルテ気味に上げられたボールが着地点から１ｍほどで目標地点に止まる。止まってからもスピンがかかっている。相手のボールの手前か連動する場所。ゲームを作るポワンテ、攻守を交代させるほどのポワンテができるようになりたいと強く思った。

大会を通じて考えること

① 通約がほしかった。
② ホテルは、ダブルベッドで２人部屋にされていた。シングルベッド２つほしかった。
③ 松田コーチには、大変お気遣いをいただきありがたかった。初日から体調を崩されていたにもかかわらず、選手のために動いていただき助かりました。試合中の指示やアドバイスは、納得できるもので、よくわかりました。
④ 現地の食事は食べられた。腹の調子が悪くはなったが、口に合わないものがあまり無かったので、元気で試合をこなせた要因だと思う。辛すぎる食べ物も少なく、アフリカ米はタイ米より日本米に近くて、楽しみながら食べられた。日本食が恋しくなるということはなかった。
⑤ 日本は弱い。世界の戦い方は、シンプルである。「寄らば、打つ。打って残して、場の球数を増やす。リスクは避ける。」チームとして、より多くの点を取るための方法と相手に取らせない方法を常に考えて、次に投げるボールを選択している。一人一人の選手のスキルが高い。
⑥ シューティングの５課題を高い精度でできるようになることが、個人スキルを上げる早道だと強く思った。
⑦ 「ポワンテはゲームを作る。」ボールのバックスピンを聞かせたポワンテをしっかりコントロールできるようにする。

以上、長々と文を書きましたが、同行したコーチと選手の皆さんと日本ペタンク・ブール連盟の事務局の皆さんのおかげで、大会に参加し無事帰国できたこと、ほんとに感謝しております。ありがとうございました。

よい成果を出せなかったことは、選手としてふがいなく、悔しく思っています。次の機会があるかどうかわかりませんが、今回の反省をもとに、次の代表選考会まで努力してみます。

追伸

19 日に帰宅してから、体調を崩し、20 日、21 日は 39.8℃になりましたが、インフルでもコロナでもなく、24 日まで寝ていました。28 日の今日でも、平熱に戻っていますがまだ引きずっています。お互い健康には留意いたしましょう。

第５０回世界選手権に参加した感想ついて

堅田　博

９月１１日～１９日迄、ベナン共和国・コトヌーで開催の第５０回世界選手権に、２０２３年度の国際大会選考会で上位に入ることができ、日本代表として参加してきました。

アフリカ大陸まで２回の乗継、1回の経由地を経て約４０時間の長距離移動となり、現地に到着してからの時差ボケを含めた体調管理に気を遣う大会でした。

会場はとても素晴らしく、地元民の方々の応援団の人数も多く、にぎやかな大会でした。

大会に参加した選手としては、アジア選手権に続いての参加と言う事で、チーム力としては連続参加した意義があったと思います。

個人としては、アジア選手権に続きシューティング競技に参加させてもらいました。やはりと言うか、続けて参加した分の慣れ等が有りアジア選手権よりも納得できるプレーが出来ました。

あとは、いつもどうりのプレーが出来れば、もう少し上の順位を狙えると思える個人的な思いでした。

今回の世界選手権では初戦のセネガル戦へのウォーミングアップ中に右手首を完全に壊してしまい、私の世界選手権はここに終わってしまいました。
代表としての責務を全うできず大変申し訳ありませんでした。
個人的にも日本ではなかなか対戦できないヨーロッパ・アフリカ勢との戦いに抱いていた楽しみが大きかっただけに「もう pétanque 辞めようかな」と頭に過ぎる状態でしたがアフリカ勢の pétanque へ取組む姿勢に初心を思い起こし、観て学ぶ事に専念する事に切り替える事が出来、そしてアフリカ勢の身体能力の高さに自分も左投げの可能性があるのではと感じさせてくれました。
その中で観て学べ、持ち帰った点として 1 番大きな収穫は pointeur・tireur には難しい事をさせていないところです。
難しい事は milieu が行っており、pointeur・tireur に難しい事をさせているチームは技術はあってもベスト 16 以上には進んでおらず、シンプルな戦略のチームがベスト 16 以上に進んでいる傾向があります。
自身へのプレッシャーのハードルを下げ成功に導くかの戦略には脱帽でした。
また、左投げでチェコ戦に出場させていただき勝利に貢献出来た事は私の自信となり、右手の治療に専念する間、どれだけ左投げの可能性を広げれるかを楽しみに感じれるようになりました。
利き手とは逆の"左投げ"にて試合に出場させてくれました監督、チームメイトには多いに感謝しております。
引き続き"左投げ"を鍛えていきますので、私の左投げを目にした方はアドバイスまたは何らかのお声がけ下さい。
最後に、フランス vs タイの準決勝はシンプルだからこそ実力がハッキリと分かり、観ている方も楽しい試合でしたので皆様もご覧下さい。
ありがとうございました。

鍋島吉博

今回世界選手権大会に参加させていただきましたので、その内容につきご報告いたします。

1. 航空チケット

出発6日前の9/6に突然、予約済の9/19コトヌーブリュッセル便が欠航と発表された。これに伴う予約変更手続きがBooking.comのせいで極めて難航し、結局新しいeチケットを入手できたのは9/12ブリュッセル空港においてだった。その間Booking.comやルフトハンザグループとの間でメールや電話のやり取りを何度も何度も行ったが、出国までに解決に至らず精神的に非常に消耗した。私が独自に航空券を入手した理由は明確で、足元の広い座席を指定したかったからである。私にとって通常席は身動きができず14時間もその状態を強いられると体調を崩す可能性が高いのである。実際に帰りのチューリッヒ成田便は予約変更により座席指定できなかったため帰国して2日間寝込むこととなった。

2. ベナン大会および他国チームの印象

コトヌーは暑過ぎずのんびりとしたところで雰囲気が良かった。大会会場もしっかりと整備されていて快適で良い印象を持った。

これまでYouTube上で多くの外国選手を観てきたが、これほどアフリカの選手が多く参加する大会を観たことはなかったので、非常に面白かった。アフリカのチームは国ごと選手ごとに投法が異なり、結局どんな投げ方でも良いのだなと思わせられた。

3. 日本チームの現状と今後

日本チームは他国に比べ技術が劣るという一点に尽きると感じた。ワンプレーの成功確率が低いので何度もメーヌを重ねていくと着実に点差が広がっていく。ただ大きな差があるのは確かである一方、この差は必ず埋められると確信できた。

試合においては、中村孝さんからの声掛けが素晴らしく、非常に助けられ感激したことが印象に残っている。堅田博さんもキャプテンの重責を担って全力でプレーされたと思う。鍋島吉博さんはアンラッキーだったが、数メーヌの出場ができたことが救いだった。私は1か月前の強化合宿後から投法を変更したのが当初はうまくいっていたが、しだいに崩れてきて立て直せずに苦労した。精一杯準備したつもりだったが、まだもう少し時間が必要だったのかもしれない。また自分に必要なスキル（ポルテ、バックスピン）を強烈に意識できた大会となった。

4. 今後の国際大会参加に向けて

これまでの日本代表による国際大会戦績などを事前学習して臨む方が良いと感じた。現在の日本のレベルであれば、比較対象や乗り越えるべき目標は他国ではなくかつての日本チームであろう。少しずつでも実績を積み上げていき日本チームの譲れない一線やプライドを意識しながら大会に臨むことが、今後につながる戦い方や有効な選手育成法の構築に資するのではないだろうか。

5. 選考会から世界選手権大会を終えるまで

3月に選考を終えて9月までの約6か月間、選考メンバーによる大会参加や個別課題の確認などを組み入れていく必要を感じた。半年もあればできることはいくつもある。大会での経験を有意義なものにするためにも事前の準備が欠かせないと思う。大会での経験を次の代表に活かしていくためにも。

6. 個人的に

今回初めてのアフリカ大陸で非常に楽しく有意義な経験ができたので大変感謝しています。

松田さんは体調不十分な中、しっかりとコーチの責任を果たされたと思います。

どうもありがとうございました。

２０２３．０９．２５　三好功